

# あおき保険だより

INSURANCE OFFICE AOKI

## 交通ルールを守り“春の新生活”

年間の死者数2547人  
(令和7年度)

春は、多くの人が期待と不安を胸に新たな生活をスタートさせる大きな節目の季節です。真新しいランドセル姿の新小学1年生を見かけると、思わず「がんばれ！」と応援したくなります。この時期は、新生活にまだ慣れていない人も多く、誰もが気ぜわしくしているため、交通事故の危険性が高くなります。

ハンドルを握るドライバーの皆さんは、普段より時間と気持ちに余裕を持って、安全運転を心がけてください。集団登下校中の児童の列に、車が突っ込み、子どもたちが被害に遭う悲惨な事故が後を絶ちません。学校の周辺を走行する際は、細心の注意を払い、

いつでも停止できるよう、やさしい運転をお願いします。

警察庁資料によると、令和7年度、全国の交通事故死者数は2,547人で、(前年比-116人、-4.4%)で統計が残る昭和23年以降で最少となりました。それでも、日本のどこかで、1日に約800件もの交通事故が起こり、約1,000人がケガをし、約7人が亡くなったことになります。

また、高齢者人口の増加にともない、死者数全体に占める65歳以上の割合も高まっています。全体の54.8%にもなっています。一方、単純な操作ミスや逆走など、高齢ドライバーが加害者となる事故が相次いでおり、社会問題となっています。

そうしたなか、平成29年3月12日施行の改正道路交通法



では、認知機能検査が強化されるなど、75歳以上に対する免許制度の見直しが行われました。あわせて警察や自治体などでは、運転免許の自主返納の呼びかけに力を入れています。代替の交通手段がないなど、地域によって事情は異なるものの、事故を起こしてからでは手遅れであることをよく考え、早めの決断も必要だといえます。